

オープンな視野で 最高のハードウェアを選んだことの意義

慶應義塾大学病院では2016年末のKELの提案の採用を決定し、KELによる支援の下、HX3310の導入作業に着手しました。その後の3月には、基盤導入の作業を完了させ、そこから時間をかけてシステムの検証や障害監視の仕組みを充実させ、2017年6月から実運用のフェーズに移行させています。

このHX3310上で最初に動作させる部門システムは、先に触れた医療機器管理システムであり、その稼働までは、HXシリーズ上で実システムの運用は行われず、システムの運用に向けた準備段階として、テストやクリティカルでないサーバの試運転を行ってきました。それでも、HXシリーズの導入でいくつかの効果を実感していると大貫氏は語ります。

「まず言えるのは、ハードウェア設置スペースの削減効果です。従来のブレードサーバとの対比で言えば、2分の1の設置スペースで、リソースが倍近くに増えたという感覚です。また、KELの手厚い支援のおかげで、障害監視・検知の仕組みについても、かなり上手く動作していると言えるでしょう」

さらに大貫氏は、HXシリーズの性能の高さを体感したケースとして、次のような例を挙げます。

「HX3310の導入後、他の物理サーバのディスク容量がひっ迫し、そのサーバのデータベースを早急に圧縮する必要に迫られました。その圧縮作業にHXシリーズを用いたのですが、結果的に物理サーバで圧縮を行うよりも、はるかに短い時間で作業を済ませることができ、HXシリーズにおけるストレージ性能の高さを改めて確認することができたのです」(大貫氏)。

実のところ、慶應義塾大学病院にとってHClの活用は初の取り組みで、KELにサーバ製品の導入を委託したのも今回が初です。

「KELでは医療機関へのIT導入の実績はそれほど豊富ではなく、慶應義塾大学との取引は多くありましたが、慶應義塾大学病院とのお付き合いはゼロに等しかったと言えます。それが今回、提案の機会をいただき、当社が信頼するレノボの製品を持って案件獲得に挑んだのです」と、KEL 第一ソリューション営業本部 第一営業部 第二課主事補の滝永 篤史氏は明かします。

そうしたKELの提案とHXシリーズを採用し、結果的に仮想化基盤の強化につながったことには大きな意味があると大貫氏は話します。

「日本の医療機関の場合、医療アプリケーションのプロバイダーの意向・判断に沿ってハードウェアの選定・導入が行われる傾向が強くなります。もちろん、アプリケーションは重要で、それとの親和性が高いハードウェアを導入することは大切です。しかし、だからといって、ユーザーによるハードウェアの選択肢が狭められたり、優れたハードウェアを供給できるベンダーが、医療アプリケーションを提供していないという理由から、提案の機会を得にくいということは業界としても問題と考えます。基本はやはり、オープンな視野で、我々ユーザーにとって最高のハードウェアを探し、選択して、それによって得たメリットを患者さんに還元することです。その視点に立って選択したKELとレノボ製品が期待どおりのパフォーマンスを発揮してくれていることは、我々ののちのテクノロジー選定や、業界全体の活性化にもプラスの効果があると確信しています」

大貫氏によれば、慶應義塾大学病院が力を注ぐ臨床研究の領域でも、新たなITの導入・活用が必要になる可能性が高いとのこと。

「そうした新領域のIT化においても、KELやレノボのさらなる活躍を期待しています」と、大貫氏は語っています。

製品紹介

Lenovo Converged HX シリーズとは

Lenovo Converged HX シリーズは、Nutanix社のAcropolisおよびPrismソフトウェアを搭載したアプライアンス製品です。Nutanixソフトウェアにより強化されたハイパーコンバージド・ソリューションは、IT専門調査会社IDCの検証によれば、TCOを最大60パーセント削減します。Lenovo Converged HX シリーズアプライアンスの導入は、世界最高レベルのレノボ製サーバとNutanixが誇るウェブスケールの管理ソフトウェアの組み合わせにより、同様のコスト削減に加えて、さらなる事業価値の拡大を実現します。



お電話やメールでのお問い合わせはこちら!

法人のお客様向け見積依頼
・ご購入相談窓口

0120-68-6200

✉ hojin_jp@lenovo.com

受付時間: 月曜日から金曜日9時から17時30分
(祝日および年末年始休業日を除く)

Lenovo、レノボ、レノボロゴ、ThinkCentre、ThinkPad、ThinkStation、ThinkServer、New World New Thinking、ThinkVantage、ThinkVision、ThinkPlus、TrackPoint、Rescue and Recovery、UltraNavは、Lenovo Corporationの商標。Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Atom、Intel Atom Inside、Intel Core、Core Inside、Intel vPro、vPro Inside、Celeron、Celeron Inside、Itanium、Itanium Inside、Pentium、Pentium Inside、Xeon、Xeon Inside、Xeon Phi、Ultrabookは、アメリカ合衆国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。他の会社名、製品名、サービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標。

Lenovo

レノボ・エンタープライズ・ソリューションズ株式会社
〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX

<http://www.lenovo.jp.com/business/>

Intel Inside® 飛躍的な生産性を
インテル® Xeon® プロセッサ搭載



ハイパーコンバージド・システム導入活用事例

慶應義塾大学病院が レノボのハイパーコンバージドを選んだ理由とは? ハードウェアの信頼性とスモールスタートでの 運用が成功の鍵

大学病院のサーバ仮想化推進で
レノボのハイパーコンバージドを採用
設置スペース1/2圧縮ながら、リソースは倍以上アップ

USER PROFILE

慶應義塾大学病院

所在地: 東京都新宿区信濃町35
設立: 1920年
病床数: 1,044床
外来患者数: 平均3,057人/日
診療科数: 31



課題

病院業務で利用している部門システムサーバの仮想化を推進する中で、現行の仮想化基盤の老朽化やリソース不足が顕在化し、新たな基盤の導入が必要とされた。

ソリューション

Nutanixの管理ソフトウェアと、レノボのサーバを一体化させたハイパーコンバージドインフラストラクチャ「Lenovo Converged HX3310」を導入。

導入効果

ハードウェアの設置スペースを既存仮想化基盤のおよそ2分の1に圧縮しつつ、リソースの大幅な増強を実現。スモールスタートでの利用が行えるHX3310の採用により、初期導入コストの適正化も図ることができた。

2020年に開院100年を迎える慶應義塾大学病院は、31の診療科を擁し、一日平均の外来患者数は3,000人を超え、病床数も1,044床(2015年度実績)に及びます。そんな慶應義塾大学病院では、部門システムサーバの仮想化を推進する中で、

Intel® Xeon®プロセッサを採用したレノボのハイパーコンバージドインフラストラクチャ「Lenovo Converged HX3310」を選択、運用を始動させました。すでに、ハードウェア設置スペースの大幅な圧縮と、性能向上というメリットを手に入れています。

Intel Inside® 飛躍的な生産性を
インテル® Xeon® プロセッサ搭載

